

I. 令和6年度事業報告

1. シン・ヤマナシ構築委員会

委員長 長澤重俊

令和6年度のシン・ヤマナシ構築委員会は①人口減少対策部会、②シン・無尽部会、③リニア・中部横断道部会、という3つの部会によって運営してきました。

令和5年8月に山梨県に提言した「シン・ヤマナシ実現に向けて」をベースに活動してきた当委員会ですが、令和6年度はその活動の中心に人口問題を据えることとしました。そもそもその提言の主旨は「若者が幸せに暮らせる山梨」であり、その実現にとって人口減少対策は欠くことのできないものです。また働き方が出産、育児に与える影響は甚大であり、経済団体としても取り組む責任を大いに感じたからです。これを受け、人口減少対策部会を立ち上げました。

また、シン・無尽部会では、山梨に喜業家を増やすためのエンハンス機能として新たな無尽文化を作る為に企業、年代の枠を超えた企画を精力的に実施しました。一方、リニア・中部横断道部会では、中部横断道の南部区間の経済効果を記者発表して北部区間の開通を促す活動や、甲府市とリニア駅周辺の開発について市担当者と議論の場を持つなど引き続き積極的な活動を展開しました。

(1) 人口減少対策部会 活動報告

部会長 長澤重俊
副部会長 山寺雅彦
副部会長 奈良田伸司

●社会増を目指すチーム長：山寺雅彦 副部会長

メンバー：雨宮潔、清水一郎、入野文謙、北村卓士、松永高幸

●働き方改革から考えるチーム長：奈良田伸司 副部会長

メンバー：小澤健太郎、五十嵐壘、飯島敦、飯島禎典、早野正泰

◇活動の概要

まず令和6年度の総会にて内閣官房参与・山崎史郎氏から人口減少についての講演をしていただき、シン・ヤマナシ構築委員会としてこの問題に取り組んでいく決意表明をしました。また昨年度の当会としての大きなイベントとなった11月8日に山梨で行われた中央日本地区会議においても、冒頭の問題提起として人口減少に取り組んでいくことを他地区の経済同友会幹部に発表させていただきました。

さらに令和7年3月には山梨県人口減少危機対策本部の事務局長・細田さんをお招きして、山梨県としての人口減少に対する取り組みについて学ぶ機会も作ることで、県の取り組みと何か協働できることはないか模索したところです。

その後の話し合いで人口減少問題はその成果が出るまでに非常に時間が掛かり、

また必要な取り組みも多岐にわたることが改めて認識されたので、6月から新たなメンバーも加え①社会増を目指すチームと②働き方改革から考えるチームの2つにテーマを分けてそれぞれ協力しながらも違う目線で取り組んでいくこととしました。このようにパワーアップした部会として、困難な課題ではある人口減少に対して、山梨経済同友会としての提言なり、施策を積極的に打っていこうと思っております。

《チーム結成後の活動》

◇令和7年7月4日 10:30～12:00 （於：山梨文化会館）

社会増を目指すチーム、働き方改革によって人口増を目指すチームを組成

当面のゴールとそれに向けたスケジュールを検討

以降、部会メンバーにて以下の資料を共有

- ・ 令和6年度山梨県常住人口調査（推計人口調査、社会移動理由別調査）
- ・ 日本の地域別将来推計人口（令和5年推計）
- ・ 人手不足の状況および多様な人材の活躍等に関する調査結果（日本商工会議所）

所）

- ・ 山梨県働き方改革等実態調査（2024年）
- ・ 山梨県商工会連合会意見交換資料「人口減少対策」
- ・ 令和6年度人手不足に関する調査（中小企業景況調査、山梨県商工会連合会

◇令和7年9月22日 13:00～14:30 （於：山梨文化会館）

各種統計資料を読み込んだ意見交換

10月24日（金）開催（予定）の「移住者×地元企業サークル」座談会について検討

今後の取り組みに向けた意見交換

以上



人口減少危機への取り組み（山梨県）勉強会

(2) シン・無尽部会 活動報告

部会長 井内冬馬

副部会長 杉原壮一郎

《当初活動方針》

「シン・無尽」を山梨の新たな地域文化として定着させ、若手・中堅層を中心とした意見交換の場を継続的に実施し、地域課題の解決や地域活性化に資する具体的なアイデアの創出と実行につなげる。

《令和6年度の活動報告》

【若手・中堅社員意見交換会】

「若手・中堅社員意見交換会」について、令和5年度に実施した2回（令和6年5月29日（水）、令和6年6月6日（木）、テーマは共に「やまなしあなたはどうしたい」）に引き続き、第3回を実施しました。

若手・中堅社員意見交換会（第3回）

日時：令和6年10月16日（水）

企画提案会：16：00～18：15

懇親会：18：30～20：30

会 場：シャトレゼホテル談露館

出席者：会員企業の若手社員、中堅社員 65名（懇親会参加者）

内 容：

「山梨の人口をどのようにして増やすか」を主題に、「街の活性化」を活用した実現可能な具体策を企画立案するグループワークを実施しました。同友会のメンバーもモデレーターとして若者と一緒にオリエンテーションに参加し、意見交換の場においても熱い議論を交わしました。

終了後には、参加者同士の交流の場（懇親会）を開催し、まさにシン無尽の提唱する、「新しい価値観との出会い」「繋がりを広げる場」として、楽しく盛大にまた充実した会となりました。

同友会参加メンバー（モデレーター：敬称略）：

長澤重俊、泉脇康展、杉原壮一郎、佐川一郎、下里幸平、井内冬馬、田中弘輝、平田慎一郎、奈良田伸司、雨宮潔、宮田雅夫、西尾健司、宮崎順子、丸山 弘、五十嵐壘、山寺雅彦、上原伊三男



グループワーク(同友会メンバーも参加)

【新規企画打合せ】

次年度に向けて、新たな企画に取り組みました。

(第1回)

日 時 : 令和6年12月24日(火)

参加者 : シン・無尽部会メンバー5人

決定事項: 事前に参加者を何名か募ったうえで企画・実行を進めていくことで調整

(第2回、第3回)

日 時 : 令和7年6月2日(月)、令和7年9月8日(月)

参加者 : シン・無尽部会メンバー5人

決定事項: 昨年の打合せ時の草案を踏まえ、各社若手と学生(20代)を混成チームでディスカッションする企画を具体化

テーマに「学生が就職したくなる未来の山梨企業」などを採用し、人口減少や地域活性化に若者目線で向き合う場とする

募集・選考は大学や他部会と連携し、運営・フォローや提案の報告書化まで詰めることで実行性を高める

以上

(3) リニア・中部横断道部会 活動報告

部会長 宮田雅夫

副部会長 志村浩男

リニア・中部横断道部会は、「中部横断自動車道北部区間（長坂～佐久小諸間）の開通による整備効果」（令和5年7月11日）と題し、山梨大学・山梨経済同友会・中部横断自動車道経済懇談会の3者で共同発表を行い、山梨県における73.5億円/年（総便益297億円/年）の経済効果が見込まれることを示すなど、中部横断自動車道の経済効果を継続的に確認して参りました。リニア中央新幹線については、最短で令和16年という具体的な時期が示されたことから、今後の10年という限られた期間の中で、山梨経済発展のために、「目的を定め、誰が誰と、どこで、何を、どのように、どの期間で、どの程度の費用をかけて地域開発を行っていくのか」という具体的な構想が求められています。リニア山梨県駅（仮称）を通過駅にせず、多くの人が乗降する駅とするため、産官学との意見交換を継続して参ります。

今年度の部会活動については、長澤代表幹事のもと、以下のとおり方針を決定し、活動を行いました。

◇今年度の活動方針

■中部横断自動車道について

北部区間整備は経済効果があると一定の評価が得られたことから、令和3年8月29日の南部区間（新清水～双葉間）全線開通から3年が経過したことを踏まえ、国交省・山梨大学・同友会の連携のもと、その交通状況や発現した整備効果の発表に向けて、山梨大学の武藤教授を中心に計測に取り組みました。その成果を共同記者発表する計画を進めていきます。

■リニア中央新幹線について

静岡県知事の交代により、開業に向けた動きが進展しているとの認識のもと、開通による東京や名古屋との距離感の変化（時短）を見据え、定住人口とインバウンドの増加（経済発展＝人口増）を目的に、新駅とその周辺開発や交通網整備など、山梨県の発展に寄与する打ち手を同友会として検討し、提言することを目指します。そのためにまずは、山梨県や甲府市のリニア関係者に対し、同友会メンバーの人脈を活用して情報収集を進めつつ、「まちづくりの基本コンセプトづくり」や実行策の検討を本部会の活動として行って参ります。

◇今年度の活動報告（敬称略）

部会長：宮田雅夫

メンバー：志村浩男、依田光人、勝岡伸圭、飯島禎典、小澤健太郎

■令和6年11月27日 山梨県との意見交換

場 所：東京ガス山梨（株） 本社会議室

目 的：①リニア山梨県駅開発に向けた山梨県の検討状況の確認

②同友会からの開発アイデアに関する質疑・意見交換

参加者：①山梨県：

- ・ 知事政策局 石寺淳一 局長
- ・ 知事政策局 リニア・次世代交通推進グループ 矢野久 推進監
- ・ 県土整備部 リニア整備推進室 吉野一郎 室長（知事政策局主幹兼職）

②同友会：リニア・中部横断道部会メンバーほか 12 名（代理含む）

- ・ 入倉代表幹事、深沢事務局長、志村、依田、勝岡、飯島、小澤、
小林、五十嵐、池田、坂井、宮田

内 容：①同友会 入倉代表幹事挨拶

②参加者 自己紹介

③山梨県 石寺局長挨拶および説明

④吉野室長による「甲府市リニア山梨県駅前エリアのまちづくり基本方針
（概要版）」説明

⑤矢野推進監による「各リニア県駅の検討状況資料」の説明

⑥山梨県作成映像「富士トラム」視聴

⑦事前送付の質疑資料に基づく意見交換

今後、県と同友会で適宜、意見交換を実施していくことを確認しました。

■令和 7 年 2 月 19 日 「中部横断自動車道（南部区間全線開通 3 年後）の整備効果」
記者発表

場 所：山梨大学 大村智記念学術館 2 階 大村記念ホール

会見者：

- ・ 山梨大学 黒澤尋 理事（中村和彦 学長代理）
- ・ 山梨大学 大学院総合研究部 中山栄浩 工学域長
- ・ 山梨大学 地域防災マネジメント研究センター 武藤慎一 センター長・教授
- ・ 国土交通省 甲府河川国道事務所 草野真史 事務所長
- ・ 山梨経済同友会 長澤重俊 代表幹事、入倉要 代表幹事
- ・ 山梨大学 地域防災マネジメント研究センター 劉星委 特任教授
- ・ 山梨大学大学院 工学専攻（修士課程 2 年） 田村昂 氏
- ・（司会）山梨経済同友会 常任幹事 宮田雅夫

内 容：

3 者は北部区間の予想整備効果を数値で発表し、早期事業化による経済効果・事業促進提言等を行ってきた経緯もあり、供用開始後の南部区間の現在の交通状況や発現した整備効果について、共同記者発表（PR）を実施しました。

〈記者発表概要〉

①移動所要時間の短縮

- ・山梨県庁～静岡県庁間が 70 分短縮（2 時間 45 分→1 時間 35 分）

②経済効果

- ・ 367 億円/年

③整備効果

- ・ IC 5 km 圏内における設備投資額累計：500 億円以上（平成 19 年～令和 5 年）
- ・ 沿線観光地等を訪れる県外からの来訪者が増加（1%～3%以上）
- ・ 沿線観光地における平均滞在時間が約 11 分増加（225 分→236 分）
- ・ 道の駅「富士川」集客数が 50 万人/年を超過（令和元年～令和 6 年：2 割増）
- ・ 山梨県農産物輸出額：1.9 億円→19.8 億円（平成 20 年～令和 5 年）など

④交通状況

- ・ 開通前から交通量が約 2 倍に増加（土休日：7,200 台/日→15,400 台/日）
- ・ 開通後、県境をまたぐ車両が約 1.9 倍に増加（2,477 台/日→4,628 台/日）
- ・ 中央道→中部横断道経由の貨物車利用割合が約 4 割増（29%→68%）など

なお、発表にあたっては、同友会内打合せ（令和 7 年 1 月 10 日）にて、共同記者発表の日程および場所（山梨大学）・次第を決定し、部会メンバーには令和 7 年 1 月 13 日にリモートにて共有しました。報道各社への案内は山梨大学より発出され、YBS・UTY・NHK での TV 放映、日経新聞など各紙での掲載により、同友会のスタンス等もお伝えすることができました。

■令和 7 年 3 月 31 日「中部横断自動車道（南部区間）経済効果記者発表」事後フォロー

武藤教授、草野所長をお招きし、同友会より長澤・入倉代表幹事、深沢事務局長、宮田が出席し、中部横断道・道路行政・リニア中央新幹線など、今後の山梨県の発展に向けた情報交換を行い、引き続き、こうした連携や活動を通じて、リニア・中部横断道を中心とした意見・提言活動を推進していく方向性を確認しました。

■令和 7 年 5 月 13 日 リニア・中部横断道部会 会議

内 容：今後の部会活動内容に関する意見交換

参加者：入倉代表幹事、深沢事務局長、志村、依田、勝岡、飯島、小澤、宮田

（参考）シン・無尽形式の懇親会（東京ガス山梨（株）料理教室を活用）を開催。

打合せ内容は「来年度の活動計画」。

■令和 7 年 6 月 27 日 甲府市との意見交換

場 所：東京ガス山梨（株） 本社会議室

目 的：①リニア山梨県駅開発に向けた検討状況のご教示

②同友会からの質疑および今後の取組に関する意見交換

参加者：①甲府市：

- ・企画部 下山聡 リニア交通政策監・部長
- ・企画部 リニア交通室 橘田善弘 室長
- ・企画部 リニア交通室リニアプロジェクト推進課 貫井佳明 課長

- ・企画部 リニア交通室リニアプロジェクト推進課 菊地原徹郎 係長
- ②同友会：リニア・中部横断道部会メンバーほか 11 名
- ・長澤代表幹事、入倉代表幹事、深沢事務局長、村田次期事務局長、志村、勝岡、小澤、五十嵐、宮崎、荒井、宮田

内 容：①同友会 長澤代表幹事挨拶

②同友会参加者 自己紹介

③甲府市側参加メンバー 自己紹介・プレゼンテーション

④事前送付の質疑資料に基づく意見交換

⑤御礼挨拶 入倉代表幹事

今後、市と同友会で適宜、意見交換を実施していくことを確認しました。

以上



山梨県との意見交換会 (R6. 11. 27)



甲府市との意見交換会 (R7. 6. 27)



中部横断自動車道（南部区間）経済効果記者発表 (R7. 2. 19)